鹿折中学校安全学習たより　　平成２９年１月２３日発行

みんなでANZEN

No. 10

〈震災の記憶（気仙沼向洋高校旧校舎の現状）〉

先日，機会があって気仙沼市の震災遺構となる気仙沼向洋高校の旧校舎を見学してきました。新聞等で報道されているように，当初は，校舎の一部のみを震災遺構として保存することになっていましたが，方針が変わり，旧校舎全体を残すことになったそうです。

内部は，６年前の震災当時そのままで，廊下や教室にがれきが積み重なり，３階には流されてひっくり返った車が感じで用具などが見られ，突然の災害が学校にいた生徒たちの生活や用具を文房具や部活動のユニホーム姿で，着の身着のままで避難して体育館に，部活動のユニホーム姿で，着の身着のままで避難して来た生徒たちの姿を思い出しました。この校舎で一晩を過ごした人は，教職員中心に４０人ほどだったそうですが，犠牲者は一人もいませんでした。

最近，いろいろなところで「震災の風化」という声が聞こえます。確かに，だいぶ復旧・復興が進み，穏やかな日常が戻ってきつつあるような気がします。その中で，あの当時の記憶（地震・津波の怖さ，物がなくなる不自由な生活など）が薄れている様子が感じられます。しかし，復興はまだ道半ばですし，いつかまた，大きな災害が起こる可能性はあります。学校では，震災を風化させず，防災・減災意識の継続を図る活動に今後も取り組んでいきます。ご家庭でも，機会を見つけて，震災当時の様子や防災についての話をしてほしいと思います。　（文責　防災担当　阿部行広）

気仙沼向洋高校の旧校舎の様子

〈水産工場が激突した後〉

〈がれきが散乱している廊下〉

〈南校舎3階にある自家用車〉

〈中庭と4階まで浸水した北校舎〉